

授業科目名	教職論				
担当教員名	大槻 雅俊				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立小学校長として教員に対する指導助言や小中連携の教育活動に携わる。また地域の3つの中学校や高校の評議員として中学、高校の教育推進・運営に携わる。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

教育は教員の人間性や専門性などが大きく関わっており、それゆえ「教育は人なり」といわれています。本授業では、教職の意義や教員の役割、教員をとりまく様々な事象を考察し、今日求められている教員の職務内容について理解するとともに、教員としての人間性、資質・能力などの素地を高め、自覚・責任感をもって教職への進路選択ができるようにします。授業では今日的な教育諸課題について教育現場の具体的な事象や教育関連法規などを取上げながら進めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

教師としての基礎的・基本的な資質に関する知識

目標：

児童・生徒の育成を目指す教員として学習指導、服務などに関する基礎的知識を身につけることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

学校現場の現状を見据え、教師を取り巻く課題を見出す力を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ成績評価を「-」（評価しない）とします。レポートなどの提出については指示された期日を厳守してください。期日を過ぎた場合は受け付けません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート	：	内容の妥当性と論理構成などの観点から、独自のルーブリックに基づいて評価をします。
	60 %	
授業内課題（ミニレポート）	：	教師としての基礎的資質に関して、独自のルーブリックに基づいて評価をします。知識理解と内容構成及び表現力の観点から評価します。
	30 %	
毎時の学習状況や受講態度	：	提出物、内容の理解度、学習に対する積極性、貢献度等についてチェックリストを活用して評価します。
	10 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

久保富三夫・砂田信夫 編著『教職論』ミネルヴァ書房2019年
 広岡義之 編著『はじめて学ぶ教職論』ミネルヴァ書房2017年

山口健二・高瀬淳 編『教職論ハンドブック』 ミネルヴァ書房2011年
 教職問題研究会編『教職論〔第2版〕 教員を志すすべてのひとへ』 ミネルヴァ書房2009年
 ほか、適宜授業で紹介いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
 通常の講義形式で行うが、適宜グループワークなど、実践的なワークを取り入れる予定である。映像資料を用いることもある。授業計画はあくまでも参加者や状況が確定する以前の計画にすぎないので、参加者個々の能力や置かれている状況等により変化した形で対応することもある。毎回の授業の瞬間を大切に、本授業が学習者各人に最適なものとなるよう、ともに学びの場を作っていきたい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日 2限

場所： 西館5階個人研究室

備考・注意事項： オフィスアワーは木曜日、2限ですが、そのほか研究室在室中はいつでも質問等可能です。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーションと教職の意義 授業の受け方や提出物等の出し方などを知るとともに、教職について学ぶことの意義を理解し、今後の授業の見通しを把握する。	教職の意義のなかで教師とは何であるか復習し、自身が目指す教師像を配布プリントに書く。	4時間
第2回 学校教育の現状と課題 教員の定年による大量退職と若手教員の増加、少子化問題による学校数・学級数の減少化、学力低下問題、いじめ、非行、暴力などについて知る。	教育の諸問題のうち学力低下について調べ、要因をプリントにまとめる。	4時間
第3回 教職についての社会の見方 教員の失態は社会で問題になりやすい。言動や身なり、教養、博識など人々の教員の捉えかたについて理解する。	教員の品格について問題となることが予想される事象を調べプリントにまとめる。	4時間
第4回 求められる教員の資質能力(1)－教員としての人間性－(現場教員へのインタビュー) 授業の基礎知識や技術を身に付け、児童・生徒や保護者などを肯定的に受け止める受容的な態度などを身につけた教員の豊かな人間性について理解する。教員の人間性について現場の現役教師のインタビューを聞く。	教員の授業力と児童生徒を受け止めることについてプリントにまとめる。	4時間
第5回 求められる教員の資質能力(2)－教師の能力－(現場教員へのインタビュー) 教員は授業が勝負であると言われ、ひとり一人の児童・生徒に応じた授業ができることは教員にとって必須である。このような趣旨を踏まえ、授業力とは何か、また児童・生徒の育成に間接的にかかわる事務処理能力、交渉能力・対応能力などについて理解する。教員の諸々の能力について現場の現役教師のインタビューを聞く。	教師の授業力や事務処理能力などを高めるための取り組みをプリントにまとめる。	4時間
第6回 教職員の種類と資格 教員の免許や資格について、その種類や職務内容そして取得に必要な履修科目等について理解するとともに教員以外の職員の職務についても知る。	教員免許の種類やその職務内容及び教員以外の職種の職務内容をプリントにまとめる。	4時間
第7回 教員の身分保障 教員の出勤時刻や退勤時刻、および問題対応の時間などと労働基準法との関係について知り、勤務条件と実際の勤務および服務について理解する。	教員の服務規程を一覧表にまとめ、説明できるようにする。	4時間
第8回 教員研修と向上心(指導体制の充実のための研修) 教員の研修はかならず取り組まなければならないことである。研修は義務としての研修と自己向上のための研修に大別でき、それぞれ具体的な事柄を挙げる。研修は教員にとって重要であることを理解する。	研修の種類と必要性をまとめ、その意義を説明することができるようにする。	4時間
第9回 教員の力量と学習指導 小学校や中学校の授業の進め方として、児童・生徒の実態を理解しながら授業を展開することを理解し、教員の力量の大切さを理解する。	教科等の指導と生徒指導の関係をプリントにまとめる。	4時間
第10回 教員の力量と校務(校長を中心としたチーム学校の組織) 校務は学校に在籍する教職員で分担して運営される。学校組織と教務、研究、生活指導をはじめ種々の校務内容について知り、教員および専門職スタッフがチーム組織として取り組んでいることを理解する。	校内の職務としての校務分掌をプリントにまとめ、自身の適正を考える。	4時間
第11回 校務分掌とその実際 校務分掌の内容について、学校運営上必要である教務、研究、生活指導、保健などの実際の様子や課題を理解する。	校務分掌の実際で学んだことから長所と短所をまとめ短所の改善策を考えプリントにまとめる。	4時間
第12回 学校、家庭、地域の連携と教員の関わり(チーム学校運営への対応)	学校と関係機関のつながりを図式的にまとめることができる。	4時間

	地域の学校という意識、地域の連合組織、地域の一員である家庭について知るとともに、区の教育行政、警察署、消防署などの官公庁との連携について理解し、それぞれと相互に連携することが児童・生徒の健全育成にとって重要であることを理解する。		
第13回	学校の安全と教員をめぐる事件・事故 学校不審者侵入、子どもの交通事故、校内事故などの学校安全管理や体罰、飲酒運転、セクハラなど教員の不祥事が起こる背景について知り、教員のあるべき姿について理解する。	学校の安全管理（校内外）について教員の関わりからまとめる。	4時間
第14回	授業全体の振り返りと教員としての自覚 授業を振り返り、教員として教育現場に赴く際、一人ひとりの児童・生徒への深い愛情と理解にもとづき、熱意をもって指導にあたる理想としての教員像を描くことができるようにする。さらに自己教育力を磨き高めるうえで、自己の課題を捉えることができる。	自身が描く理想とする教師像と自身が努力すべきことがらをまとめる。	4時間

授業科目名	教育原理				
担当教員名	榊原 志保				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立高等学校で英語科教諭として勤務した経験あり（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

学校教育に携わる専門職に求められる教育の基礎理論として、教育の理念ならびに教育に関する歴史および思想、社会的、制度的事項、学校と地域との連携並びに学校安全への対応に関する基礎的事項を学びます。今日におけるわが国の教育を成り立たせている教育の思想や歴史、制度、また、その土台にある理念・目的を理解し、それを踏まえて自己の「教育」理解を問い直し、視野を広げ、深めるとともに、現代社会における教育課題や教員としての役割や使命、責任についての認識と考えを深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

教育に関する理念、歴史及び思想の理解
教育制度、学校と地域との連携、学校安全への対応に関する理解

目標：

教育の基本的概念や理念が、教育の歴史や思想においてどのように現れてきたか、また、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたかを理解できる。
現代の学校教育に関する社会的、制度的事項ならびに学校と地域との連携や学校安全への対応に関する基礎的知識を身につけるとともに、その課題を理解できる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通
2. DP4. 課題発見

教育に関する他者の意見や主張を丁寧に聴いて的確に把握することができ、また、自分の意見や主張を、文章や口頭発表をとおして、分かりやすく正確に伝えることができる。
現代社会における教育をめぐる諸課題について、自分なりの問題意識をもつことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

チャトルシート等授業内外の課題（5点×11回）	55 %	：	授業外学修課題（予習シート2点）をもとに、授業での学びを的確にまとめることができているかどうかを評価します（3点）。
授業内小テスト（10点×3回）	30 %	：	学期中に3回行い、基本的内容の知識・理解を確認します。
定期試験（レポート）	15 %	：	学修成果のまとめとしてのレポートについて、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
新井郁男・牧昌見 編著	・教育学基礎資料 第6版	・樹村房	・2010 年

参考文献等

原聡介 監修 田中智志 編 『教育学の基礎』 一芸社
 佐藤学 編 『教育本44』 平凡社
 田中智志 今井康雄 編 『キーワード 現代の教育学』 東京大学出版会
 木村元 小玉重夫 船橋一男 『教育学をつかむ』 有斐閣

その他、各回授業のなかで適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けての準備をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限(10:40~12:10)
 場所： 教育第4研究室
 備考・注意事項： 質問等連絡をとりたい場合は、Eメールで（アドレスは授業のなかでお伝えします）。Eメールの件名には、必ず学籍番号と氏名を入れてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション — 「教育」とは？ — 教職課程において、なぜ「教育学」を学ぶ必要があるのかを、①「教育」に対する理解交換（グループワーク）、②「教育学」がめざすことの学習を通して理解します。「教育」の意味をテーマに、現代に生きる私たちの「教育」に関する前理解を考えます。	これまで自分がどのような場所でどのような「教育」を受けてきたのかをまとめてください。	4時間
第2回 「教育」の意味と場所 授業外学修課題でまとめた「教育」の場所と内容を発表し合い、「教育」の意味と場所について考えます。人間形成は多様な場所を通過しながらなされていくことについて考察するとともに、そうした場所の相互関係が歴史的にどのように変遷してきたのかについて学んで理解し、教育の歴史と思想を学ぶ意義を確認します。	コルチャックならびに「児童の権利に関する条約」に関する資料を読んで、考えたことを300字から400字程度で書いてきてください。	4時間
第3回 現代の子ども観と教育観 授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、現代の子ども観に関する理解を深めます。現代の子ども観が成立してきた歴史を学び、子ども観と教育観との関係についても考察します。	開発主義と注入主義、ソクラテス、コメニウスについて調べてまとめてください。	4時間
第4回 家族と社会による教育の歴史（1）西洋の教育思想と歴史 授業外学修課題で調べてきたことを発表し合い、本時で学ぶキーワードの連関について考えます。近代以前の西洋における教育思想と歴史を学ぶなかで、キーワードの意味と連関を確認し、近代以前の家族と社会による教育の歴史に関する知識と理解を獲得します。	大空寮、国学、金沢文庫、足利学校、中江藤樹、貝原益軒について調べ、まとめてください。	4時間
第5回 家族と社会による教育の歴史（2）日本の教育思想と歴史 授業外学修課題で調べてきたことを発表し合い、本時で学ぶキーワードの連関について考えます。近代以前の日本における教育思想と歴史を学ぶなかで、キーワードの意味と連関を確認し、近代以前の家族と社会による教育の歴史に関する知識と理解を獲得します。	ルソー、ペスタロッチ、コンドルセ、ヘルバルト、デューイについて調べ、まとめてください。	4時間
第6回 近代教育制度の成立と展開（1）西洋の教育思想と歴史 授業外学修課題で調べてきたことを発表し合い、本時で学ぶ教育思想の連関について考えます。近代以降の西洋における教育思想と歴史を学ぶなかで、様々な教育思想の特徴と連関を確認し、近代以降の教育制度の成立・展開に関する知識と理解を獲得します。	藩校、私塾、寺子屋、福沢諭吉、学制、森有礼について調べ、まとめておいてください。	4時間
第7回 近代教育制度の成立と展開（2）日本の教育思想と歴史 授業外学修課題で調べてきたことを発表し合い、本時で学ぶ教育史について考えます。近代以降の日本における教育史を学ぶなかで、近代日本における教育制度の成立・展開に関する知識と理解を獲得します。	教育勅語、日本国憲法、教育基本法、学校教育法について調べてまとめてください。	4時間
第8回 現代日本における公教育制度の原理及び理念	各学校の目的を調べ、気づいたことをまとめてきてください。	4時間

	<p>授業外学修課題で調べてきたことを発表し合い、本時で学ぶ公教育制度の原理及び理念について、教育関連法規に基づいて考えます。</p> <p>第2次世界大戦前後の教育史を学び、戦後日本における公教育制度の土台にある理念・目的に関する知識と理解を獲得します。</p>		
第9回	<p>現代日本における公教育制度の仕組みと諸課題</p> <p>授業外学修課題でまとめてきたことを発表し合い、現代日本の公教育制度の仕組みと諸課題について考え、学びます。</p>	<p>PISAの問題に取り組み、現代社会において求められている力について考えたことをまとめてきてください。</p>	4時間
第10回	<p>現代社会における教育課題（1）世界における教育課題と教育政策の動向</p> <p>授業外学修課題でまとめてきたことを発表し合い、現代社会における教育課題について考えます。現代社会において世界的教育課題とされていることについて学び、教育政策の動向についても理解します。</p>	<p>日本における教育課題に関する新聞記事を読み、分かったことと考えたことをまとめてきてください。</p>	4時間
第11回	<p>現代社会における教育課題（2）日本における教育課題と教育政策の動向</p> <p>授業外学修課題でまとめてきたことを発表し合い、現代日本における教育課題について考えます。現代日本において教育課題とされていることについて学び、教育政策の動向についても理解します。</p>	<p>コミュニティ・スクール、学校運営協議会について調べ、まとめておいてください。</p>	4時間
第12回	<p>現代日本における学校教育の課題（1）地域との連携</p> <p>授業外学修課題でまとめてきたことを発表し合い、学校教育の課題としての地域連携の問題がどのような課題や背景のもとにクローズアップされてきたのかについて考えます。</p> <p>現代日本が直面している社会的課題について学び、学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方を、取り組み事例を踏まえて理解します。</p>	<p>学校保健安全法、学校安全について調べ、まとめてきてください。</p>	4時間
第13回	<p>現代日本における学校教育の課題（2）学校安全への対応</p> <p>授業外学修課題でまとめてきたことを発表し合い、学校安全の問題がどのような課題や背景のもとにクローズアップされてきたのかについて考えます。学校の管理下で起こり得る事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解します。</p>	<p>「教育学」授業をとおしての学びを振り返り、とくに関心や理解が深まったテーマとその内容をまとめてきてください。</p>	4時間
第14回	<p>まとめ — 「教育学」を通しての学びを振り返る —</p> <p>授業外学修課題でまとめてきたことを発表し合い、「教育学」授業を通しての学びの成果を共有します。第1回～第13回の「教育学」授業を通しての一連の学びを振り返り、修得すべき力がどれくらい身についたのかを自己評価して学びを総括します。</p>	<p>「教育学」を通しての学びを総括するレポートをまとめてください。</p>	4時間

授業科目名	教育心理学				
担当教員名	田中 哲平				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

教育心理学では、心理学の様々な基礎的知識を学びながら、幼児や児童および生徒の心と身体の発達過程を理解するとともに、学習の成立過程についても学ぶ。これらを通じ、各種発達段階に応じた適切な学習指導の礎となる考え方の理解を深める。講義では配布資料を読むだけでなく、映像資料の視聴や学生同士の話し合い、そして簡単な心理学実験を行い、上記の目標を達成する。幼児・児童・生徒の心身の発達過程や、学習の成立過程に関する基礎理論を学び、彼らの発達と学習を支える教育活動について論じていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

教育に関連する心理学の考え方を理解する。

目標：

教員として求められる心理学的な知識を身に付けることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

教育現場における幼児、児童および学生について深く理解し、適切な関わり方を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み状況	：	授業内容に関する質問、コメント、感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。（2点×14回=28点）	28 %
小テスト	：	講義で学んだ知識（教育に関する心理学的知識や、幼児・児童・学生との関わり方に関する知識）を正しく理解しているかについて評価する。（11点×2=22点）	22 %
期末試験	：	講義で学んだ知識（教育に関する心理学的知識や、幼児・児童・学生との関わり方に関する知識）を正しく理解しているかについて評価する。（50点）	50 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜4限

場所： 西館4F研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：tanaka-te@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 教育心理学とはなにか 授業の目的、内容、評価について確認を行い、心理学や教育心理学の基本的な考え方を理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「原始反射」「喃語とクレーイング」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第2回 子どもの言語発達 幼児・児童・生徒の発達、特に原始反射や幼児の言語獲得について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「発達の最近接領域」「物体の永続性」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第3回 子どもと外界との関わり 幼児・児童・生徒の発達、特に発達の最近接領域や物体の永続性について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ピアジェの認知的発達段階理論」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第4回 様々な発達段階理論 幼児・児童・生徒の発達、特にピアジェの認知的発達段階理論について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「心の理論」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第5回 子どもの心の理論 / 到達度テスト 幼児・児童・生徒の発達、特に心の理論について理解する。第1回～第4回を範囲とした小テストを行う。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ボールビイの愛着理論」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第6回 愛着理論 幼児・児童・生徒の発達、特に愛着理論について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「古典的条件付け」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第7回 条件づけから見た学習理論 人間の学習における古典的条件付けについて学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「試行錯誤学習」「洞察学習」「オペラント条件付け」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第8回 様々な学習理論と強化スケジュール 人間の学習におけるオペラント条件付け、試行錯誤学習、洞察学習について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「アンダーマイニング効果」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第9回 動機付けのメカニズムと社会的学習 人間の学習における動機付けと社会的学習について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「類型論」「特性論」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第10回 パーソナリティの諸理論 / 到達度テスト パーソナリティ、特に類型論と特性論について理解する。第5回～第9回を範囲とした小テストを行う。	配布資料を復習し、次回キーワードの「IQ」「ロールシャッハテスト」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第11回 性格検査と知能検査 各種の性格検査や知能検査について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「短期記憶」「長期記憶」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第12回 記憶のメカニズム 人間の記憶のメカニズムについて、古典的な実験を基に理解を深める。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ワーキングメモリ」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第13回 脳科学から見た記憶と学習 人間の記憶のメカニズムについて、最新の脳科学研究から理解を深める。	配布資料を復習し、次回キーワードの「集団とリーダー」「学習評価」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第14回 集団の形成 / 学習評価 教育現場における集団におけるリーダーについて理解する。教育現場における学習評価に関する知識と、評価が歪む心理的要因について理解する。	これまでの授業を復習し、疑問点をまとめておく。	4時間

授業科目名	特別支援教育				
担当教員名	渡部 昭男				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	特別支援学校にて勤務した経験及び地域支援コーディネーターとして幼保小中高を支援した経験を踏まえ、具体的事例をもとに講義する（全7回）。				

開放科目の指示；「不可」

授業概要

2014年の「障害者権利条約」批准により、「障害者差別解消法」「改正障害者雇用促進法」の施行など、国内における「障害」にかかわる法整備が進み、教育においても特別支援教育からインクルーシブ教育推進への動きが加速している。本科目では、「障害」を取り巻く最新の教育的動向を考えることを通じて、「障害」のあるとされる子どもへの教育的支援の基礎、及び実践における支援のあり方を学ぶとともに、「障害」「支援」「共生」「教育」といった概念について深く考え、自らのかかわりを常に問い直す教育的姿勢の涵養を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	特別支援教育に関する知識	教員免許取得を目指す者として、「障害」についての基礎的な知識を習得するとともに、教育的支援に必要な知識及び支援方法についても理解することができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	障害のある子の就学・進学にかかわる様々な事項の学習を通して、教育的支援のあり方や「合理的配慮」を考える。	事例にもとづいたグループでの議論（事象分析や状況判断の検証）から、知識と実践を接合する困難さや対話的関係の重要性に気付くことができる。
汎用的な力		
1. DP5. 計画・立案力		専門的知識を活用し、個々の児童の状況把握と支援への方策を立案することができる。
2. DP9. 役割理解・連携行動		教育的支援を実践する専門家としての役割と限界を知ることで、組織内の一員としての連携の重要性を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

成績評価の方法・評価の割合

予習シート（2点×7回＝14点）

評価の基準

： テキストの予習（復習）

14 %

小テスト（6点×7回＝42点）

： 講義の内容を理解しているかテキストを踏まえた小テストで確認する

42 %

期末レポート（44点）

： テキストをもとにレポート作成に挑戦する

44 %

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

参考文献等

特別支援学校—幼稚園教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部 文部科学省 2015
 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚園・小学部・中学部・高等部) 文部科学省 2015
 【新訂版】特別支援教育の基礎基本 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 2015 ジアース教育新社
 【改訂版】特別支援教育基本用語100 明治図書出版 2014
 その他 講義中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 具体的にはGoogleClassroomのクラス「特別支援教育」を通じて課題等のやり取りを行う。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 毎週火曜～木曜の昼休みまたは講義修了後
 場所： 中央館120研究室
 備考・注意事項： メールでも対応する。メールには、必ず氏名と所属を記すこと。
 watanabe-a@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 特別支援教育とは ・必修科目「特別支援教育」(1単位)の目的と概要 ・シラバス及び講義の進め方など ・テキストの紹介および「プロローグ」の学習	テキストのプロローグに関して復習する。テキストの第1章について予習をし、予習シートをGoogleClassroomに提出する。	4時間
第2回 知っておきたい就学の事務手続き ・テキスト第1章「知っておきたい就学の事務手続き」の学習	テキストの第1章に関して復習する。テキストの第2章について予習をし、予習シートをGoogleClassroomに提出する。	4時間
第3回 就学先を訪ねてみよう ・テキスト第2章「就学先を訪ねてみよう」の学習	テキストの第2章に関して復習する。テキストの第3章について予習をし、予習シートをGoogleClassroomに提出する。	4時間
第4回 複数の目で育もう ・テキスト第3章「複数の目で育もう」の学習	テキストの第3章に関して復習する。テキストの第4章について予習をし、予習シートをGoogleClassroomに提出する。	4時間
第5回 特別支援教育を活用しよう ・テキスト第4章「特別支援教育を活用しよう」の学習	テキストの第4章に関して復習する。テキストの第5章について予習をし、予習シートをGoogleClassroomに提出する。	4時間
第6回 ともに学び育ちあう教育 ・テキスト第5章「ともに学び育ちあう教育」の学習	テキストの第5章に関して復習する。テキストのエピローグについて予習をし、予習シートをGoogleClassroomに提出する。	4時間
第7回 思春期・青年期を見とおして ・テキスト「エピローグ 思春期・青年期を見とおして」の学習	期末レポートを仕上げる。	4時間

授業科目名	道徳教育論				
担当教員名	高宮 正貴				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

道徳とは何か、道徳に答えはあるのかを考えることを通して、道徳教育の基盤である道徳の意味や善悪、正しさについて理解するとともに、学校で道徳教育を行うことの意義について理解する。その上で、学習指導要領がめざす「特別の教科 道徳（道徳科）」と「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」それぞれの特質、目標、内容を理解する。また、道徳教育の実践的指導力を養うため、道徳科の指導方法（教材の読み方、発問づくり等）を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

道徳教育に関する専門的な知識の習得
「特別の教科 道徳」の指導に関する専門的な基礎知識と実践的な技能の獲得

目標：

道徳とは何か、道徳を教えるとはどういうことかについて理解することができる。
「特別の教科 道徳」の授業理論、教材の読み方、指導方法、評価について理解し、実践的な授業力や評価する力の基礎を身につけることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力

物事を根本から考え直すことで、課題に気づくことができる。
目標を明確にし、それを達成するための計画を立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価をしない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末試験「筆記」	60 %	：	授業内容の理解度と応用力を評価する。
指導案作成	30 %	：	それまでの授業内容の理解に基づいた効果的な指導案が作成できているかどうかを評価する。
受講態度	10 %	：	授業に積極的に参加し、進んで課題に取り組む態度を評価する。

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

高宮正貴	・ 価値観を広げる道徳授業づくり：教材の価値分析で発問力を高める	・ 北大路書房	・ 2020 年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	・ 教育出版	・ 2017 年

参考文献等

- ・ 授業の中で配布する。
- ・ 授業の中で適時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。メールアドレスは初回の授業で伝える。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 道徳とは何か、道徳に答えはあるのか 現在は価値観の多様化と言われる社会である。したがって、道徳の問題には答えがないように思われがちである。果たしてそうなのか？価値観が多様化する社会における道徳教育はどのように行われるべきかについて考えを深める。	価値観が多様化していると言われる社会で起こる道徳的な問題を理解するとともに、そのような社会における道徳教育の在り方についての理解を深める。	4時間
第2回 学校の教育活動全体で行う道徳教育 『学校学習指導要領』における道徳教育が「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科 道徳（道徳科）」によって構成されていること、それぞれの特徴、目標、内容について理解する。その上で、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」の具体的なあり方について理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、学習指導要領がめざす道徳教育についての理解を深める。	4時間
第3回 道徳科の目標、内容、評価 『学校学習指導要領』における「特別の教科 道徳（道徳科）」の目標、内容、評価について理解する。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の目標、内容、評価について考えを深める。	4時間
第4回 「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導法（1）「問題解決的な学習」の作り方 「特別の教科 道徳（道徳科）」の教科書に載っている教材を用いて、子どもたちに何を考えさせたいかを決めるためには、教材に含まれている4つの「道徳的な問題」のいずれであるかを教師が捉える必要がある。道徳的な問題を解決する「問題解決的な学習」作り方についての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の教材の読み方について考えを深めるとともに、教材の読み方を他の教材にもあてはめて読む。	4時間
第5回 「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導法（2）6つの教材の読み方 「特別の教科 道徳（道徳科）」の教科書に載っている教材を用いて、どんなことに気付け、考えさせたいかを決めるための6つの教材の読み方（A：道徳的価値の意味、成立条件を読み解く、B：複数の価値観の重みの違いを読み解く、C：道徳的価値の意義を読み解く、D：人間理解の視点で読み解く、E：条件変更、F：個別の状況下での価値理解の適用の是非・あり方を考える）についての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくりについて考えを深めるとともに、授業構想を立て、発問を作成する。	4時間
第6回 「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導法（3）「問題追求め学習」の学習指導過程、学習問題と中心的な発問を作るための視点、 第4回の教材を用いてどのような授業をすればよいかを構想する。「問題追求め学習」の学習指導過程、学習問題と中心的な発問を作るための視点、道徳授業のねらいの作り方について理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくりについて考えを深めるとともに、授業構想を立て、ねらいを作成するとともに、展開過程を構想する。	4時間
第7回 道徳科の学習指導案の作成 第4回の教材を用いてどのような授業をすればよいかを構想し、指導案の作成方法を理解する。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、学習指導案を作成する。	4時間

授業科目名	教育方法論				
担当教員名	山中 左織				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭として、公立小学校及び、小中一貫義務教育学校にて勤務。（全14回）				

開放科目の指示：可

授業概要

学習指導要領改訂に伴う議論が進められる中で、育成すべき資質・能力を明確化し、教育目標や内容を見直すとともに、学習・指導方法と評価を一体のものとして改善することが目指されています。そうした学習・指導方法として「アクティブラーニング」に注目が集まっており、教師には、これまで以上に教育方法・技術を工夫し、発展させることが求められます。そこで本講義では、具体的な事例をもとにしながら、教育方法・技術に関する基本的な考え方について、その歴史と今日的課題を踏まえて考察し、実践で活用できるようにします。目標1:教育方法論に関する基礎的な知識を習得する。目標2:教育方法論に関して、学んだことを活かしながら、批判的に考察することができる。目標3:学んだことを活かしながら、教育方法(授業案)を実際に構想することができる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

教育方法に関する基礎的な考え方・知識
授業デザインの作成と授業実践

目標：

教育方法に関する基礎的な考え方や知識を修得することができる。
教育方法の基本的な考え方や知識を授業デザイン案の作成と授業実践に活用することができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

発見した課題の解決に向けて、授業デザイン案を作成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末課題	30 %	：	講義中に扱った内容をもとにした課題を課し、執筆してもらう。具体的な課題は講義内で発表する。
授業内試験	40 %	：	1. 教育方法論に関する基礎的な知識を習得しているか、2. 教育方法論に関して、学んだことを活かしながら、批判的に考察することができるかについて評価するために授業内試験を行う。
振り返りシート	30 %	：	毎回、授業内容の振り返りの提出を求め、出席と授業内容の理解度を判断する。独自のルーブリックによって評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説』最新版。
- ・田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2018年。
- ・石井英真『授業づくりの深め方』ミネルヴァ書房、2020年。

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後
- 場所： 授業を行う教室
- 備考・注意事項： 原則として、上記のとおりとする。
また、別途質問等はメールにて受け付ける。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション:教育と教育学 本講義の目標、内容、評価を知る。教育とは何か、教育学とは何か考える。	授業内容を復習し整理する。	4時間
第2回 教育方法学とは何か:教えること、学ぶこと 教育方法学とは何か考える。教えることと学ぶことの基本について学ぶ。	授業内容を復習し整理する。教えることと学ぶこととは何か自身で考察する。	4時間
第3回 教育目標論1:目指すべき学力像 教育目標論の基礎について学ぶ。目指すべき学力像について考える。	授業内容を復習し整理する。どのような学力の育成が求められているか自身の考えをまとめる。	4時間
第4回 教育目標論2:資質・能力論 教育目標論についてさらに発展的に学ぶ。資質・能力論とは何か、その動向について考える。	授業内容を復習し整理する。どのような資質・能力の育成が求められているか自身の考えをまとめる。	4時間
第5回 教科学習 教科学習の教育方法や近年の実践動向を学ぶ。	授業内容を復習し整理する。近年の実践動向について、自分の言葉で整理する。	4時間
第6回 総合・探究学習 総合・探究学習の教育方法や近年の実践動向について学ぶ。	授業内容を復習し整理する。探究学習がどのような意義と課題を有しているか考察する。	4時間
第7回 教育・学習評価論 教育・学習評価の基本的な考え方や具体的な方法論について学ぶ。	授業内容を復習し整理する。評価の基本的な考え方や具体的な方法論を自身で整理する。	4時間
第8回 教育方法に関する政策動向:現行学習指導要領の特徴 現行の学習指導要領の特徴について学ぶ。	授業内容を復習し整理する。政策動向について自分の言葉で整理する。	4時間
第9回 教育方法(教材・教具・ICT活用)/ 授業論1:基礎編 教育方法(教材・教具・ICT活用)/ 授業論の基礎を学ぶ。	授業内容を復習し整理する。授業論の原則を自身でまとめる。	4時間
第10回 教育方法(教材・教具・ICT活用)/ 授業論2:応用編 教育方法(教材・教具・ICT活用)/ 授業論の応用について学ぶ。	授業内容を復習し整理する。授業論の応用方法を自身でまとめる。	4時間
第11回 教育方法(教材・教具・ICT活用)/ 授業論3:実践編 教育方法(教材・教具・ICT活用)/ 授業論の実践方法・形態について学ぶ。	授業内容を復習し整理する。授業論の実践例に言及し、その意義と課題を自分なりに整理する。	4時間
第12回 授業デザイン演習1 授業デザインに関する基礎的な演習を行う。	授業デザインに関する課題に取り組む。	4時間
第13回 授業デザイン演習2 授業デザインに関する応用的な演習を行う。	授業デザインに関する課題に取り組む。フィードバックなどを踏まえて、自身の取り組みを改善する。	4時間
第14回 まとめ:教育方法の探究に向けて 教育方法の探究に向けて本授業の総括を行う。	本授業の復習と総括を行う。	4時間

授業科目名	総合的な学習の時間と特別活動				
担当教員名	松田 忠喜				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員として、教諭、首席、教頭、校長を務める。 ・大阪府の小中学校の特別活動に関わる研究会に所属し、計画・運営に携わり、書記・副会長（5年）・会長（5年）を務める。（全14回） 				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

特別活動が教育活動の中で、児童・生徒の人間形成にどのような役割を果たしているのかを理解し、特別活動を推進していく上で必要な基礎的・基本的な知識・技能を修得することを目的とします。その中で、特別活動の基盤となる「学級活動」については、「演習」等も交えながら、具体的な指導法について学びます。また、総合的な学習の時間では、目標及び内容からどのような学習であるかを理解するとともに、「年間指導計画や単元計画の作成の仕方」「探究的な学習」の進め方について理解を深めます。そして、毎回授業の終わりに「振り返り」をすることで、その時間の学びを深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	特別活動並びに総合的な学習の時間の指導法について理解を深める。	特別活動や総合的な学習の時間の特質を理解し、問題解決的及び探究的な学習の方法を理解することができる。
汎用的な力		
1. DP5. 計画・立案力		特別活動並びに総合的な学習の時間の課題発見、話し合い、解決に向けての取り組みなど一連の活動計画や年間指導計画等を立案できる。
2. DP6. 行動・実践		自ら進んで課題を発見し、解決のための見通しを立て、実践に取り組む態度を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行いません。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題	評価の基準
20 %	授業内での役割遂行や課題の提出などにより評価します。
30 %	授業内容が的確にまとめられ理解できているか、自分の考えや思いが述べられているかを評価します。
50 %	授業で行った範囲の中から、授業内容を把握し、考えを深めているかを確認する筆記テストを実施します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

参考文献等

文部科学省 小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 特別活動編 東洋館出版社 平成29年
 文部科学省 小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 総合的な学習の時間編 東洋館出版社 平成29年
 文部科学省 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 特別活動編 東山書房 平成29年
 文部科学省 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 総合的な学習の時間編 東山書房 平成29年
 文部科学省 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』 教育出版 平成22年11月
 杉田 洋 『よりよい人間関係を築く特別活動』 図書文化 平成21年12月

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 テキストをもとに次の学習内容について予習を行うとともに、授業後は、配布プリントをもとに丁寧に復習に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業を行う教室

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 特別活動の目標・内容と特質・教育的意義 「なすことによって学ぶ」を方法原理とする特別活動の特質や教育的意義について理解を深める。また、特別活動が各教科等の学びを実践につなげ、全教育活動の基盤となる役割を担っていることを理解する。	これまでの特別活動の経験や体験について振り返り、整理しておく。また、配布プリントをもとに復習を行い、特別活動の本質や教育的意義、目標・内容について理解を深める。	4時間
第2回 学級活動における目標と内容 学級活動の目標・内容から、集団や自己の生活、人間関係における課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成や意思決定をして、自主的、実践的に取り組む活動であることを具体的な事例を取り上げて理解を深める。	テキストをもとに学級活動の目標・内容からどのようなことがわかるのか考えを整理しておく。また、配布プリントをもとに復習を行い、学級活動の目標と内容について理解を深める。	4時間
第3回 学級活動(1)(2)(3)における指導方法 学級活動(1)(2)(3)において、それぞれの学習過程をもとに指導方法の違いや特質があることを理解するとともに、合意形成や意思決定に至るまでの事前の活動や本時の活動、事後の活動及び評価などの具体的なプロセスについて学ぶ。さらにキャリア教育の要としての特別活動を考える。	テキストをもとに学級活動(1)と(2)(3)の違いについて調べ、整理しておく。また、配布プリントをもとに復習を行い、学級活動の指導法について理解を深める。	4時間
第4回 学級活動における指導案作成の考え方 学級活動(1)と(2)(3)の実践例をもとに、学級活動の学習指導案についての基本的な考え方や作成の仕方について学ぶ。	テキストをもとに学級活動(1)と(2)(3)の学習指導案について概観しておく。また、配布された学習指導案をもとに、自分なりに題材を考え、学習指導案を作成する。	4時間
第5回 学級活動(1)と(2)(3)の模擬授業(話し合い活動の実習) 学級活動において、事前に決めておいた役割分担や議題・題材にもとづいた模擬授業等を行い、その活動を振り返ることで評価につなげる。	本時の議題、題材についての自分の考えを整理しておく。また、模擬授業を振り返り、今後の学習に生かすことを考える。	4時間
第6回 生徒会活動の目標・内容と指導法 生徒会活動の目標や内容、組織(委員会活動も含む)、評価などについて理解を深めるとともに、生徒会の教育的意義について考える。また、学校行事との関係についても理解する。	テキストをもとに、生徒会活動の目標・内容、委員会の活動を概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、生徒会活動について理解を深める。	4時間
第7回 学校行事の目標・内容と指導法 学校行事の目標・5つの内容と指導法について理解を深めるとともに、学校行事の教育的意義を考える。また、地域との連携を踏まえた取り組みなど学校と地域との関係について理解する。	テキストをもとに、学校行事の目標・内容と指導法について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、学校行事について理解を深める。	4時間
第8回 「総合的な学習の時間」のねらいと意義、教育課程への位置づけ 「総合的な学習の時間」が創設された背景、ねらいや教育的意義、及び教育課程への位置づけについて学ぶ。	テキストをもとに「総合的な学習の時間」が創設された背景や意義などについて概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、「総合的な学習の時間」のできた背景や意義、教育課程への位置づけなどについて理解を深める。	4時間
第9回 「総合的な学習の時間」の目標・内容と全体計画	テキストをもとに「総合的な学習の時間」の目標や育てたい資質・能力、全体計画などについて概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、「総合的な学習の時間」の目標・内容や全体計画について理解を深める。	4時間

	「総合的な学習の時間」の目標・内容、育てたい資質・能力について理解するとともに、全体計画の作成について学ぶ。		
第10回	「総合的な学習の時間」における探究的な学習の在り方	テキストをもとに「探究的な学習のプロセス」について概観しておく。また、配付プリントをもとに復習し、「探究的な学習過程」について理解を深める。	4時間
	「総合的な学習の時間」の特質ともいえる「探究的な学習」についてのプロセスを理解する。		
第11回	「総合的な学習の時間」と各教科等の関連	テキストをもとに「総合的な学習の時間」と他の教科等との関連について概観しておく。また、配付プリントをもとに復習し、各教科等で育成する資質・能力との関連及び学習を充実させるための体制づくりや実践上の留意点について理解を深める。	4時間
	「総合的な学習の時間」と各教科等で育成を目指す資質・能力との関連について学ぶとともに、学習を充実させる体制づくりを理解する。		
第12回	「総合的な学習の時間」の年間指導計画作成の留意点と単元計画の作成	テキストをもとに「総合的な学習の時間」の年間指導計画及び単元計画について概観しておく。また、配付プリントをもとに復習を行い、年間指導計画作成の基本的な考え方や留意点について理解を深めるとともに単元計画を具体的に作成する。	4時間
	「総合的な学習の時間」の年間指導計画の基本的な考え方や留意点について学ぶ。その上で、単元計画の基本的な考え方や授業づくりの留意事項について学び、探究的な学習としての単元計画を各自で作成する。		
第13回	「総合的な学習の時間」の単元計画の発表	「総合的な学習の時間」の単元計画をプレゼンテーションできるように準備しておく。復習として、プレゼンテーションを通して得た学びをまとめ、「総合的な学習の時間」の望ましい在り方について考えを深める。	4時間
	各自作成した「総合的な学習の時間」の単元計画をプレゼンテーションし、授業（単元構成）についての考えを深める。		
第14回	「総合的な学習の時間」の評価の基本的な考え方とその方法、これからの学校教育と「特別活動・総合的な学習の時間」	テキストをもとに「総合的な学習の時間」の評価及び「特別活動」と「総合的な学習の時間」の共通点・相違点について概観しておく。また、配付プリントをもとに復習し、評価の基本的な考え方や方法、「特別活動」「総合的な学習の時間」のこれからあるべき姿（在り方）について考える。	4時間
	「総合的な学習の時間」についての評価の基本的な考え方とその方法について学ぶ。また、講義のまとめとして、「特別活動」と「総合的な学習の時間」の共通点や相違点を確認し、これからの学校教育における「特別活動」と「総合的な学習の時間」の果たす役割を考える。		

授業科目名	生徒指導・教育相談				
担当教員名	中野 澄・園田 和江				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中野：中学校・教育委員会・文科省で生徒指導に関する実務経験（第1回～7回） 園田：教育機関で相談員、教員として勤務（第8回～14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

学校教育における生徒指導と教育相談の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、これらを実施するために必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題を含めて学ぶ。また、具体的な問題行動及び教育相談の事例を取り上げ、問題の理解を深めると共に、望ましい学級形成の在り方について考究する。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導及び教育相談に関する現代的な課題を探求し、実際の教育活動の意義と実際的な取り組み方についての理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

望ましい生徒指導・教育相談のあり方への理解を深め、教育現場での実践に活かすことができるようにする。
生徒指導・教育相談を行う前提となる児童生徒（の問題について）の理解を深化させる。

目標：

生徒指導・教育相談に関する知識・技能を身につけている。教育現場における生徒指導・教育相談の役割と重要性を理解できる。
児童生徒（の問題）の理解にもとづき、発達や学習を促進させための関わりや指導・支援の方法について考えることができる。

汎用的な力

- DP9. 役割理解・連携行動

教職員間・家庭・地域・関係諸機関との連携のありかたについて理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業の参加度	：	授業への積極的参加、グループワークへの貢献度、授業態度などを総合的に評価する。
20 %		
授業内課題	：	授業内課題の達成率について評価する。
30 %		
期末レポート	：	生徒指導・教育相談のそれぞれについてレポートを課す（生徒指導25%、教育相談25%）。レポートは独自のルーブリックを用いて評価する。
50 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「生徒指導提要」文部科学省 教育出版
「生徒指導リーフ」国立教育政策研究所など。
その他、授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 中野：月曜2限

場所： 各教員の研究室または教室（授業時間の前後）

備考・注意事項： ・授業（毎回行うグループワーク）への参加度（20%）、授業中の課題達成度（30%）、レポート（50%）を、上記の到達目標の観点から採点し、総合的に評価する

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション：教育課程における生徒指導体制の位置づけ及び生徒指導体制・教育相談体制の違いについて 学校教育において、生徒指導が何を目的としてどのように位置づけられるべきかを理解する。その上で、生徒指導体制と教育相談体制の具体例を示し、目的や構成員の違いについて理解する。また、シラバスを活用して、授業の進め方や準備物、評価の観点等について理解する。	学修内容について整理する。自身の中学校での体験を振り返り、何が生徒指導として行われていたか考えてみる。	4時間
第2回 生徒指導の理論と手法 集団指導（1）各教科・道徳教育における生徒指導のあり方と進め方 各教科・道徳教育における生徒指導のあり方について探求することで、日常的な教育活動の中で生徒指導の機能がどのようにいかされるべきかを理解する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、様々な教育活動における生徒指導のあり方について文献にあたる。	4時間
第3回 生徒指導の理論と手法 集団指導（2）総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導のあり方と進め方 総合的な学習の時間や特別活動において、「居場所づくり」と「絆づくり」の違いを理解し、児童生徒の自主性をいかに生徒指導のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめる。	4時間
第4回 生徒指導の理論と手法 個別指導（1）家庭・地域・関係機関と連携した対応の重要性と進め方 いじめ認知件数、不登校児童生徒数、暴力行為発生件数の全国的な状況を理解するとともに、具体的な事案も取り上げながら、児童生徒の最善の利益のための家庭・地域・関係機関との連携の必要性を理解し、具体的な進め方を考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、教育実習校に関連する関係機関の場所を調べる。	4時間
第5回 生徒指導の理論と手法 個別指導（2）教員と専門職との日常的な連携の目的や進め方 今後、さらに進むであろうスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の配置拡充を意識し、教員と専門職との連携の重要性について、具体的な事案も取り上げながら理解する。あわせて、専門職の特性をいかした教育相談体制のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、専門職の資格や役割についてさらに調べる。	4時間
第6回 実践事例研究（1）いじめ・不登校への対応、「学校いじめ防止基本方針」の目的・内容の理解 実際の「学校いじめ防止基本方針」を収集しその内容を比較しながら、いじめの対応に関する基本的な考え方、専門職の活用、関係機関との連携のあり方について理解し、その内容をまとめる。また、国の動向も踏まえつつ、不登校対策を3つの視点に分けて、個別指導と集団指導の重なり合いの具体策や個別指導に必要な視点について理解する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、様々な自治体や学校におけるチーム学校の構成員を調べる。	4時間
第7回 実践事例研究（3）暴力行為及び今日的な課題への対応、生徒指導に関する法令内容の理解 生徒指導に関する法令を知り、それが学校現場ではどのように反映されるのかについて、暴力行為や児童虐待、ネット上のトラブル等の対応事例をもとに考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、体罰に関する報道等を調べまとめる。	4時間
第8回 教育相談の位置づけと体制、前提となるカウンセリングマインド 学校教育の中でなぜ教育相談が重要な意味を持つようになったのか、その位置づけと体制について学び、受容・傾聴・共感といったカウンセリングマインドについて理解する。	自身の中学校時代を振り返り、なにが教育相談として行われていたかについて考える。「カウンセリングマインド」について調べる。	4時間
第9回 学校における教育相談と心理療法・カウンセリングの理論 学校における教育相談において必要な心理療法・カウンセリングに関連する基礎的理論を学ぶ。	心理療法・カウンセリングの実際事例について、文献にあたる。	4時間
第10回 教育相談の具体的な進め方における組織的取り組み・連携の必要性 教育相談にあたって必要な組織的取り組みの必要性と実際のあり方について理解する。	学修内容について整理する。第8回で考察した教育相談の位置づけ・体制と重ね具体的な事例から連携の必要性についてまとめる。	4時間

第11回	<p>児童生徒の不適応・問題行動の意味：発するシグナルやSOSを見抜く目</p> <p>「子どもを見る眼」を鍛えるために用意された事例をもとに、その背景にあるもの、根本的な原因を理解しようとする姿勢について考究する。</p>	<p>授業で検討した以外の事例を課題に、子どもの事実をどう捉えどのような声かけをしていくのかレポートする。</p>	4時間
第12回	<p>不登校・いじめ問題と教育相談及び地域の医療・福祉など連携の重要性</p> <p>不登校・いじめ問題について、その解決に向けた取り組みの事例をもとに、発達段階発達課題に応じた教育相談の進め方について知る。また、課題を学校だけで抱え込まず広く関係諸機関と連携することの重要性を認識する。</p>	<p>不登校・いじめについて実際の支援・対応事例を調べる。</p>	4時間
第13回	<p>発達障害の理解・援助と対保護者も含めた学校教育相談</p> <p>発達障害についての理解を深め、その支援・援助のあり方と、子育てに悩む保護者も含めた学校教育相談の果たす役割について、考究する。</p>	<p>発達障害について基礎知識をおさえ、実際の支援事例の文献にあたる。</p>	4時間
第14回	<p>学校現場における教育相談活動の実際</p> <p>教育相談の事例をもとに、教育相談の望ましいあり方について考究しグループディスカッションを行う。また、これまでの学修内容を振り返り、望ましい生徒指導及び教育相談のあり方について考究する。</p>	<p>教育相談について学んだ内容を整理し、目指す教育相談のあり方についてレポートにまとめる。</p>	4時間

授業科目名	栄養教育実習事前事後指導				
担当教員名	弓岡 仁美				
学年・コース等	1・2	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	学校栄養士として公立小学校に勤務。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、1年生と2年生の2年間にわたって全14回行われる栄養教育実習のための授業です。教育実習前の事前指導と実習後の事後指導で構成されています。教育実習前には、事前指導として、栄養教諭免許状取得のための栄養教育実習の意義、目的を理解するとともに、教育実習に必要な事項の準備を行い実習への心構えを持つことを目指します。そして実習後には、実習内容の反省や問題点を整理、報告し、今後の課題の明確化を行う事後指導を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

教育実習の意義、手続きについて理解する。

目標：

教育者としての実習について理解し、児童とのかかりについて理解できる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

栄養教諭の教育実習に必要な知識と技術について理解する。

栄養教諭としての専門的知識・技能を修得し、研究授業に対する準備ができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

教育実習に対して、自分に不足している知識及び技能について気づくことができる。

教育実習に対して積極的に考え、自ら行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	50 %	：	授業内課題の内容について、科目独自のルーブリックを用いて評価する。10点×5回の課題を提出する。
教育実習の成果発表	30 %	：	教育実習の成果発表の内容および教育実習ノートについて、独自のルーブリックを用いて評価する。
取り組み状況	20 %	：	課題等の取り組み状況について、独自のルーブリックを用いて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

食に関する指導の手引～第二次改訂版～（文部科学省）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本授業は、栄養教育実習に行くための事前事後指導であるので、受講状況や態度によっては教育実習に参加できない可能性があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限
場所： 栄養第2研究室
備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間でも研究室に在室の場合はいつでも質問に応じます。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 栄養教育実習の意義や目的及び概要について 栄養教諭についての学科オリエンテーションを行う。 栄養教育実習の意義や目的について理解する。	栄養教諭免許取得を目指す心構えについてレポートを作成する。	1時間
第2回 教育実習依頼の手続き及び、履修カルテの説明と記入 栄養教育実習の依頼手続きについて説明する。 履修カルテの概要について学び、記入可能な箇所について各自が記入する。履修カルテを通して、各自の実習前の履修状況や準備状況を確認する。	栄養教育実習の依頼手続きを行う。	1時間
第3回 2回生の栄養教育実習報告会への参加 2回生の栄養教育実習の体験発表を聞き、終了後グループワークを行う。	次年度の教育実習に向けて、教育実習で取り組みたいことについてレポートを作成する。	1時間
第4回 教育実習の展開と教育実習で理解する学校の教育諸活動 学校の教育諸活動について理解する。 履修カルテの意義を理解し記入を行う。	履修カルテを記入後、教職での学びを振り返る。	1時間
第5回 人権教育 教育実習に向けて、人権教育について講義を受ける。 教育実習先でどのような人権配慮が求められるのかを各自が確認する。	教育現場における人権についてレポートを作成する。	1時間
第6回 望ましい授業のあり方 実習校の実態を踏まえた課題の確認。 教育実習での研究授業の進め方について学ぶ。	各自実習校についてレポートを作成する。	1時間
第7回 学習指導案の作成について 学習指導計画について、グループワークを行う。	学習指導案を完成させる。	1時間
第8回 細案、教具の作成について 学習指導案に基づいた細案と教具を作成する。	細案と教具を完成させる。	1時間
第9回 教育実習記録の意義と記入方法について 教育実習記録の意義と実習ノートの記入方法について理解する。	教育実習ノートを記入する。	1時間
第10回 直前指導 実習中の連絡方法、実習後の提出物、実習の評価方法など、実習に向けての直前指導を行う。	教育実習に向けて準備すべきことについて考える。	1時間
第11回 実習内容報告資料作成、栄養教育実習先へのお礼状の作成 教育実習に行く心構えや実習校との打ち合わせ事項の最終確認を行う。	各自、実習先との打ち合わせを行う。	1時間
第12回 栄養教育実習報告会・反省と問題点の整理 教育実習後、実習内容について報告する。 他の学生の実習報告を聞き、自己の課題について考察する。	報告会の資料を作成する。	1時間
第13回 教育実習の成果発表と自己評価（1回生参加） 教育実習の成果を発表後、1回生を交えてグループワークにて振り返りを行う。	後輩へ向けての教育実習レポートを作成する。	1時間
第14回 栄養教育実習の振り返りと今後の課題の明確化 各自が栄養教育実習を振り返り、今後の課題の明確化を行う。	これまでの学びを振り返り、栄養教諭としての自己評価を行う。	1時間

授業科目名	栄養教育実習				
担当教員名	弓岡 仁美				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	学校栄養士として公立小学校や学校給食センターに勤務				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

栄養教諭は、児童に対して教育指導を行なう教員であり、その職務は「児童の栄養の指導及び管理をつかさどる」ことにある。本科目では、このことを認識したうえで、実際の教育現場において教育者としての能力を身につけるための実習を行なう。5日間という限られた時間の中で、自己の習得した理論や技術を適用し、果たして十分な効果が得られるか検証することを目指す。したがって、栄養教諭としてだけでなく、小学校及び中学校の教諭として、児童や生徒への対応や学校組織の一員としての役割などを実践から学ぶ科目である。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	学校における教諭の立場や役割についての理解	教育者として児童・生徒に関わり、一人一人の個性を理解できる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	学校教育現場における教育実践力	学校における栄養教諭の役割を理解し、食に関する指導を実践することができる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		自ら学んできたことを振り返り、自己の課題を発見することができる。
2. DP6. 行動・実践		研究授業に向けて積極的に行動し、授業実践ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
実習の記録および報告書	： 教育実習の記録について、正確性、明確性、論理性、簡潔性、読みやすさ等の観点から4段階で評価する。
50 %	
実習先の評価	： 実習先の指導教員によって、実習態度、マナー、教諭としての資質、実習記録等の観点から5段階で評価する。
50 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「食に関する指導の手引―第二次改訂版―」/文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、全体で45時間の学修が求められる。

体調管理に留意し、5日間の実習を行うこと。

事前に実習先校の先生と十分な打ち合わせを行い、しっかり準備を整えたうえで教育実習に望みましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限
場所： 栄養第2研究室

授業計画

第1回 **学校での栄養教育実習（5日間）**

栄養教諭二種免許取得のための5日間の教育実習を行う。

- ・学校経営や校務分掌に関する指導教諭等からの説明
- ・児童及び生徒への個別的な相談、指導の実習
- ・児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習
- ・食に関する指導の連携・調整の実習

学修課題

事前準備をしっかりとしたうえで実習に臨む。毎日、実習記録を記載するとともに、次の日の準備等を計画的に行う。

授業外学修課題にかかる目安の時間

10時間

授業科目名	教職実践演習（栄養教諭）				
担当教員名	大槻 雅俊・弓岡 仁美				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立小学校長として栄養教諭に対し、指導方法や児童理解、教材解釈などについて指導・助言を行う。(第2～9回) 学校栄養士として公立小学校や学校給食センターにて勤務。(第1回、第10～14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、栄養教育実習後、栄養教諭として最小限必要な資質・能力及び教育実践力が身につけているかどうか評価し、学生自身が教壇に立つものとしての自己課題を明確にし、それを克服しようとする意欲を持つことを目指す。これまでの栄養教諭に必要な学びの集大成として本授業が位置づけされており、栄養教諭免許取得者として自覚することを目的とする。グループワークなどを通して、自分に不足している力を発見かつ克服し、栄養教諭資格取得者に相応しい知識と技術を修得したことを確認する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	栄養教諭として必要な知識技能	これまでの学びを振り返り、栄養教諭に必要な知識・技能を修得したことを確認することができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教職の意義や教員の役割、地域や家庭との連携	食に関する授業やイベントを企画・立案し、実施することができる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		栄養教諭として必要な資質、能力、実践力について、自己の課題を明確化するとともに、それを克服することができる。
2. DP6. 行動・実践		教員としての使命感や責任感をもち、社会性や対人関係能力を身につけ、子どもが主体的に学ぶことができる授業を実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題	評価の基準
40 %	： 教員が授業内で指示したテーマに沿ったレポートや製作物を独自のルーブリックによって評価します。
10 %	： 授業への積極的参加（発表や質問等）や受講態度（マナー、取り組み姿勢など）を独自のルーブリックによって総合的に評価します。
50 %	： 担当教員2名のため、それぞれの評価数値を合算し、総合的に評価する。また定期試験期間中に提出した最終レポートを独自のルーブリックによって評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考資料等：必要に応じて資料やプリントを配布する。

参考図書：四訂栄養教諭論－理論と実際－（建帛社）
食に関する指導の手引き 第二次改訂版（文部科学省）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限

場所： 栄養第2研究室

備考・注意事項： メールでも受け付けます。
yumioka@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（自己の課題を確認し、授業概要を理解する。）（弓岡） 演習の進め方と評価方法について理解する。 履修カルテに記入し、栄養教諭取得に向けて自らの課題について考える。	4時間
第2回	教職の意義と教員の責務（大槻） 教育実習の体験や自身の児童・生徒時代を振り返り、教職の意義や教員の責務を再認識する。	4時間
第3回	児童・生徒の理解（大槻） 教育実習体験を基に、多様な子どもの理解の仕方と教員のかかわり方について省察する。	4時間
第4回	児童・生徒を取り巻く教育諸問題（大槻） 児童・生徒を取り巻く教育問題のうち、いじめ・不登校・子どもの安全確保などの問題について理解し、対応について考える。	4時間
第5回	子ども一人一人の個性の尊重（大槻） 子どもの個性の尊重と教師の役割について知り、個を尊重する視点からディスカッションを行うことを通して、一人一人を大切にすることの重要性を理解する。	4時間
第6回	学級経営と子どもの学び（大槻） 学級は子どもにとって学びの空間かつ集団であり、子どもの成長にとって重要な役割を果たす。そこで学級経営の意義と望ましい学級経営あり方を知り、子どもが楽しく学び、安全に生活できる学級づくりについて理解する。	4時間
第7回	子どもが主体的に取り組む授業とは（大槻） 子どもが主体性を発揮する授業づくりについて、教育実習の体験から得た知見をもとに学習課題の視点から実践的な授業づくりを考える。	4時間
第8回	主体的な授業の構想（大槻） 児童・生徒が主体的に学ぶ授業づくりを目指し、教材の選定及び発問、板書を構想する。	4時間
第9回	子どもが主体的になるアクティブな授業の実践（大槻） 主体的かつ能動的な子どもの姿を求めて模擬授業を行い、その反省から子どもの主体性の源がどこにあるか考える。	4時間
第10回	地域と家庭と学校の連携・協働①（企画・立案）（弓岡） 地域の学童保育と連携し、児童主体の料理教室を企画・立案する。	4時間
第11回	地域と家庭と学校の連携・協働②（食育指導資料の作成）（弓岡） 各グループごとに、ICTを活用して料理教室の実践に向けたレシピ作成、試作調整、食材料の発注書作成等を行う。	4時間
第12回	地域と家庭と学校の連携・協働③（実施に向けた準備）（弓岡） 児童主体の料理教室に使用する食育指導資料および家庭へ配布する食育資料をICTを用いて作成する。	4時間
第13回	地域と家庭と学校の連携・協働④（実施）（弓岡） 料理教室の準備（食材下処理、会場準備など）	4時間

	地域の学童保育の児童を対象とした料理教室と食育指導を実施する。		
第14回	まとめ（弓岡） 地域の学童保育の児童への料理教室を振り返り、改善点等を検討する。 また自己の栄養教諭としての資質能力について確認し、履修カルテへの記入を行う。	最終レポートを作成する	4時間

授業科目名	教育課程論				
担当教員名	新規非常勤				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育課程の原語にあたるカリキュラムは、「子どもの成長と発達に必要な文化を組織した、全体的な計画とそれに基づく実践と評価を統合した営み」とされる。カリキュラムは、国が定める内容だけでなく、教室で教師が子どもたちに与える内容や、子どもたちが実際に達成した内容を含む概念である。本授業では、学習指導要領の変遷についての知識を修得するのみならず、カリキュラム編成を行う上で基盤となる原理や理論、およびカリキュラム編成にまつわる歴史的な論点を理解することを目標としている。これらの理解を踏まえた上で、具体的な実践を取り上げながら、カリキュラム編成上の現代的課題について検討する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

カリキュラム編成を行う上で基盤となる原理や理論、および求められるこれからの教育課程の枠組み

目標：

戦後日本の教育課程の変遷についての基礎的知識を持つとともに、求められるこれからの教育課程について現在の議論を踏まえて説明できる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

教育課程の変遷を踏まえて、教育課程をめぐる現代的課題の論点を理解し、それに対して妥当な主張を展開することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業外課題・コメントカード

： 毎回の授業内容の要約と振り返りの提出を求め、授業内容の理解度を判断する。一部の回については、授業内で指示したテーマに沿ったレポートの作成を求め、独自のルーブリックによって評価する。

60 %

授業内ワークシート

： 授業中の参加度・学習状況について、配布するワークシートの記述内容をもとに判断する。

20 %

筆記試験

： 教育課程に関する基礎的知識の定着を問う期末試験を行う。

20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田中耕治編『よくわかる教育課程』第2版、ミネルヴァ書房、2018年。
 田中耕治編『よくわかる教育評価』第3版、ミネルヴァ書房、2021年。
 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』東山書房、2018年。

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』東山書房、2018年。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業を行う教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、教育課程（カリキュラム）とは何か 教育課程（カリキュラム）とは何かを理解する。 カリキュラムをめぐる論点について概観する。	授業内容について復習するとともに、その要約を書く。「カリキュラム」という用語について知っていることをまとめる。	4時間
第2回 カリキュラムと教育目標・評価 カリキュラム編成の際の要となる教育目標にまつわる論点を概観する。 教育評価の概念についても扱い、成績付け（評定）とは異なる教育評価の意義を理解する。	授業内容について復習するとともに、その要約を書く。教育目標と評価の一体化を意識した授業を考える。	4時間
第3回 カリキュラム編成原理と方法1：経験主義 カリキュラム編成原理のうち経験主義を扱い、具体的事例の検討を通して、経験主義の特徴と課題を理解する。	授業内容について復習するとともに、その要約を書く。授業で検討した経験主義カリキュラムの事例・論点について、ディスカッションを踏まえて自身の考えを再度まとめる。	4時間
第4回 カリキュラム編成の原理と方法2：系統主義 カリキュラム編成原理のうち系統主義を扱い、具体的事例の検討を通して、系統主義の特徴と課題を理解する。	授業内容について復習するとともに、その要約を書く。授業で検討した系統主義カリキュラムの事例・論点について、ディスカッションを踏まえて自身の考えを再度まとめる。	4時間
第5回 カリキュラム・マネジメント 近年のカリキュラム・マネジメントの実践事例の検討を通して、カリキュラム・マネジメントの意義、およびカリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。	授業内容について復習するとともに、その要約を書く。授業で検討したカリキュラム・マネジメントの先進的な事例について、ディスカッションを踏まえて自身の考えを再度まとめる。	4時間
第6回 戦後教育課程の変遷（学習指導要領を中心に） これまでの授業で習ったカリキュラム編成の基盤となる原理や理論、論点を踏まえて学習指導要領の変遷を捉える。現行学習指導要領の特徴を、現代社会の特徴やこれからの時代に求められる力と関連づけて理解する。	授業内容について復習するとともに、その要約を書く。カリキュラム編成上の現代的課題についてのレポート課題に取り組む。	4時間
第7回 授業づくりとカリキュラム、筆記試験 これまでの授業を振り返り、カリキュラム編成が授業づくりにどのように関わっているのかを考察する。学習指導要領の変遷およびカリキュラム編成を行う上で基盤となる原理や理論についての基礎的知識を問う筆記試験を実施する。	授業内容について復習するとともに、その要約を書く。カリキュラム編成上の現代的課題についてのレポート課題に引き続き取り組み、完成させる。	4時間